

ふく チャレ

伝統を引き継ぎながら、
いま求められる新たな
こけしを作り続けたい



伝統を活かしつつ、新たな発想で作られた「ほほえみがえし」を、子どもを抱くように大切に持つ阿部さん。

土湯こけし工人組合
組合長
阿部 国敏さん

日

本三大こけしの一つといわれる土湯こけしは、約二百年

続く伝統があり、素朴な美しさが魅力です。阿部家の6代目である阿部国敏さんは、十代の頃から伝統のこけしを作り続けてきましたが、15、16年前に、「昔からの形だけではなくて、ちよつと変わったかわいいものを作って、若い人にも伝統に興味をもってほしい」との考えから生まれたのが「ほほえみがえし」です。土湯こけしの特徴は残しつつ、表情は「おちよぼ口」ではなく、にっこりとほほえんでいます。この「ほほえみがえし」は大きな反響を呼び、こけしに興味のなかった方にも「かわいいいね」と言ってもらえるようになりました。

その後「こけしブーム」が再燃し、



橋のたもとに立つ巨大なこけしのオブジェは土湯温泉街の象徴。そのすぐそばに阿部さんのお店兼工房があります。



木を削ったり、何か作業をしている最中に、ふと「新しいものができそうだな」と思いつくことが多いのだとか。



左端が「ほほえみがえし」。他は伝統を引き継いだ昔ながらの阿部家の土湯こけし。現在、土湯のこけし工人は7人。土湯の伝統を残しつつ、各家独自の特徴を今も引き継いでいます。

各地でさまざまなかわいっこけしが作られるようになりましたが、阿部さんは「ただ新しいだけだと、伝統こけし工人々ではなく、なってしまう。伝統はぶれないようにしたい」と語ります。伝統を大切にしながら、阿部さんはこれからも、時代が求めるこけしを作り続けます。